

おの100と私 ~観えない力に感謝の念を~

おのみち生まれ、おのみち育ち。

そんな私をもっともおのみちを好きになれたのは、おの100のおかげだと思います。大学生活4年間を振り返ると、いつもそばには存在を認めてくれる大好きなおの100の仲間がいて、毎日の出来事や出逢う方々がどこかでおの100とリンクしていて、あまりの感動に心が震えていました。「先輩のようになりたい!」「尾道でおの100をやってみたい!」と胸が熱くなったあの日から4年。学ばせていただいたことは書ききれないほどありますが、その中でも特に「観えない力に感謝の念を持つ」「相手の立場に立って考え行動し、与えられた環境をよりよい方向に導く」という2点が今の私の軸になっています。

「観えない力に感謝の念を持つ」

本隊での2年間、別働隊での2年間。この4年間おの100に携わらせていただき、さまざまな立場に立ち、さまざまな視点から観えない力に触れることができ、たくさんの方々に支えられておの100が成り立つことを知りました。休憩地・宿泊地として施設を貸してくださる先生・職員の方々を始めとする本番はもちろんのこと、お忙しい中、学生ボランティア募集に協力してくださった先生方、快く協賛してくださった企業みなさまに出逢った支援塾。全国の団長さんが「熱意」だけでなく想像以上の「覚悟」を持って挑まれているのを目の当たりにした福岡会議や団長研修。子どもたちのために、そして私達のためにこんなに尽力されている方がいらっしゃる…。本番が終わった後も続くたくさんのお出逢いは、心の底から「ありがとうございます」という感謝の念と感動を湧き上がらせました。その度に、「今後は私も相手が自分のために費やしてくれた時間や労力を想像できる人間になろう!」と決意したのでした。

「相手の立場に立って考え行動し、与えられた環境をよりよい方向に導く」

そして、今度は自分が今できることをもっともっとやろうと考えるようになりました。周りの様子を見て、今の状況をよく考えて、頭をフルに使って「どうすることがベストか?」を考えるチャンスをたくさんいただけたと思います。どうすればうまくいくか?どうすればみんながより快適に過ごせるか?そのために今やるべきこと、今できること何?特に本番中、頭の中はこれでいっぱいでした。しかしそれは、「やらなくちゃ」ではなく「みんなが少しでも快適に過ごせるように」という想いが私を動かしたのでした。子どもたちのそばで過ごした1年目の頃は、そんな心配りをしていただいていたことすらも気づいていなかったでしょう。別働隊の方々は私達(本隊)の観えないところでこんなふう動いてくださっていたんだ!係りの動きひとつひとつにこんな理由があったんだ!ということも知りませんでした。しかし、子どもたちはちゃんと見ています。そして、観えない力を子どもたちに伝えてくれ

るメンバーがいます。本番中の休憩地や宿泊地、ゴール後のステージでの感謝の言葉、解散後に自分の荷物を保護者の方に任せず自分で持って帰るたくましい姿、「重たい荷物を運んでくれてありがとう」「おいしいお水を用意してくれてありがとう」と書かれた感想文を読めばわかります。

この世に当たり前のことなんて1つもありません。有り難いことばかりですね。だからこそ私は「ありがとう」という言葉を惜しみなく使うようになりました。これからもひとつひとつに感謝しよう。今自分にできることをやろう。自分なりに相手の立場に立って考え行動しよう。たとえ大変なことでも、大きく変わるチャンスだと前向きに捉えてチャレンジしよう。欲張りですが、そんな想いでいっぱいです。

最後に。子どもたち、そして私達の成長を願い、愛情たっぷりで導いてくださったKAKIさん、観えないところでたくさん支えてくださり、私達の笑顔を守ってくださったねえやん、背中を見せてくださった憧れの先輩方、共に歩んだ大好きな同志、慕ってくれたかわいい後輩のみなさん、ずっと応援してくれた大切な家族。子どもたちや保護者のみなさま、地域の方々…。関わっているすべての方々との素敵なご縁に、心から感謝いたします。本当にありがとうございました！これからも、生まれ育ったここおのみちに根を張り、感謝と感動いっぱいの道のりを歩み続けます。

“ 当たり前が 有り難い すべてのものに ありがとう ”